

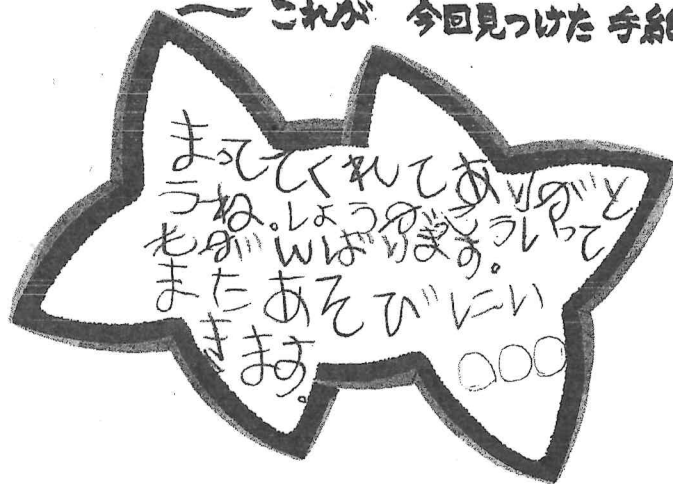
夢窓幼稚園通信第23号

2026年6月30日

年齢とともに物忘れが多くなり、一日の内で探し物をする時間が増えていきます。大切なものがなかなか見つからないで、すこぶる困ることもあります。反対に探す時間には思いがけなく大切なものや懐かしいものと再会する、ラッキーなこともあります。先日も、とてもうれしいものと出会えました。

何年も前の卒園の日にいただいた手紙です。
その子は入園の頃、幼稚園になやまな通えないう子でした。両親とおじいちゃん、おばあちゃんに囲まれた温かい環境で大切に育てられ、そこから離れて知らない集団の中に突然ひとりで入って行くのがとても不安だったのでしょう。園内に入るのも無理でした。
休みの日に小さなキティーちゃんバスを動かしていたところ、たまたま通りかかったその子がバスに興味を示したので誘って、二人でしばらくドライブしたこともありました。それからしばらく時間は必要でしたが、自分があじし納得できた。果に、しひとりとのどかに幼稚園生活を楽しく過ごしてくれました。

～これが、今回見つけた手紙です～



「まっけてくれて、ありがとうね。」...

小さかった時のことを、相手の側に立って覚えていて、何年か経って、このような言葉で表現することができているので、すごいな、と思います。

こちらの方こそ「素敵に大きくなってきて、ありがとう」「ほんとうに、おめでとう」です。

(今は高校生の素敵なレディーですが、実際中学生のときは、夏休みの美術の宿題の相談に来られたり、年賀状のやりとりを続けてしている卒園生です。)

さあ、もうすぐ七夕です、

七夕は 子どものときから、織り姫 と彦星が一年に一度だけ会う機会を与えられた話として知っていますが、もしかしたら、「じっと待つことの大切さ」を伝えようとしている話なのかもしれません、

何かが生まれてくるには、いのちが輝き生まれてくるには、待つ時間が、必要です、

自分の願いを越えて、目の前の存在たちが生きようとするのをそのものとして待つ...のですから、それはもう 祈りに他ならないのではないかと思います、

以前「大地と天空の間を生きる存在」というサブタイトルの付いた英語の本に出会ったことがあります、

二つの世界の間で 様々な力に支え励まされ生まれてくる「いのち」たちを じっと待ち、祈り、見守ることで、大地と天空にまた 結びが ひとつ できるのかもしれません、

そんなことを思いながら、深呼吸をして、今年の7月、七夕を、なつまつりを、毎日を...迎えたいと思います、

園長 介光 泰雄

